

Title	序
Sub Title	
Author	長谷山, 彰(Haseyama, Akira)
Publisher	学校法人慶應義塾
Publication year	2019
Jtitle	重要文化財 慶應義塾図書館保存修理工事報告書 (本編) (2019. 9)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Book
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12004001-00000000--003">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12004001-00000000--003</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 序

図書館旧館は、いまから、107年前の1912年（明治45年）に、慶應義塾創立50周年を記念して建てられ、正式名称を「慶應義塾50周年記念図書館」といいます。当時は、書籍は大変貴重なもので、その保存および閲覧をする図書館の必要性が叫ばれ始めた先駆的な建物です。当時、建設費はすべて寄附金でまかなわれています。蔵書6万冊、2階には大閲覧室が設けられ、<sup>しやうしや</sup>瀟洒な外観は慶應義塾のシンボルになりました。

関東大震災（1923年）、東京大空襲（1945年）で損壊や焼失を受けましたが、その都度、先人たちにより復旧をされています。

図書館の蔵書は時代の経過とともに増えていくことから、それに伴い、第2書庫や第3書庫が増築され、今の姿となっています。それでも足りずに、1982年（昭和56年）に図書館（新館）が完成し、多くの図書館機能はそちらに移行されました。

1969年（昭和44年）明治後期のゴシック様式を代表する建物として、重要文化財に指定されました。

今回の改修工事は、図書館旧館の調査の結果、耐震補強が必要であったため、その耐震補強工事（免震レトロフィット工事）を行うこと、それと同時に、外装・内装など建物の劣化した部分の保存修理を施すことを目的としています。

今回の改修工事が、無事完了しましたのも、文化庁のご指導の下、設計・監理者ならびに工事関係者のご尽力によるものと、ここに深く感謝申し上げます。

今後、この図書館旧館を利用して、慶應義塾の歴史・伝統を広く世の中に発信していくための場として、「慶應義塾史展示室」を整備し、活用する予定としています。今後もこの図書館旧館は、慶應義塾のシンボルとして、末永く後世へ引き継がれていくことを期待しています。

本書は、工事の詳細な報告ですが、日本の数少ない煉瓦造の保存、修理の記録となります。今後、同様の保存修理事業に参考としていただければ幸いです。

令和元年9月

慶應義塾長 長谷山 彰